

第7回豊橋市教育課題検討会議 議事録（要旨）

平成26年11月28日（金）15：30～

場所：豊橋市役所 東86会議室

- 1 出席者 委員 稲田 充男、白井 正康、岡本 賀生、市川 英輝、笹野 壽
大久保 貴子、羽柴 留美※敬称略
事務局 宮崎 正道（学校教育課長）、田中 正己（教育政策課主幹）、
山本 誠二（教育政策課課長補佐）、上野 喜一郎（学校教育課指導主事）、
三浦 正雄（教育政策課主査）、大橋 史明（教育政策課主事）

2 事務局あいさつ（田中 教育政策課主幹）

- ・報告書の最終案のまとめを行う。

3 議 事 小中一貫教育導入の可能性について

《委員の主な意見》

- ・国の動きの中で教員の配置や定数の問題は議論されているのか。
- ・されています。文部科学省の方針は、お金も人も出すと言う方向性です。
（事務局）施設一体型の施設に対しても補助を出すなど今後様々なメニューが出てくると思われる。
- ・教職員研修と書かれているが、目的は教職員の意識改革であるので、教職員の意識改革と記した方が良いと思う。

教科担任制について、記述が漠然としているので、どの教科へ力を入れていくのかなど、戦略的なものが必要であると思う。名古屋市では、国語を専科教員にしていくとされています。豊橋市であれば、例えばものづくりを掲げるのであれば、ものづくりの教科を教科担任制にしていくなど何かみえると良いと思う。

表を作ったから終わりではなくて、この表をどういう責任体制で進めるかの明確化、実行していく場合のルールとプロセスを示せるかが、問題である。「2年で1段階上げる」などといったものがある。誰が責任を持って進めていくのが重要。学校の人員は変わっていくので、道筋を可視化できるようにしなければならない。学びの連続性を築くために、全国的に動いている。

豊橋市は、英語と環境教育と理科を出しているので、モデル事業としてカリキュラム作りを行って欲しい。研究校でも何でも良いので、プランニングできるようなシステムが欲しい。

（事務局）表を作ったのは良いが、どういう仕組みで進めていくと良いかを検討することは、大変だと分かっている。仕組み作りについては、今後どういう風に行うとうまくいく

のかを研究していきたい。学校それぞれの環境があるので、全ての学校が最終ステップまでたどり着けるのかという疑問もある。各学校の立ち位置を見ながら、使えるものにしていきたいので、今後の研究課題として事務局で探していきたい。

・地域の問題などありますが、全てを学校まかせにするのではなく、豊橋市としてのモデルを一つ示し、それぞれの学校に合わせて進めていけるようにしないと、進まないと考えます。

実際問題として簡単にできるものではないので、理想像としてのモデルをどこか限定して示す必要があると考える。

小中一貫教育は、今後大切であり、教育課題を解決するための方策として良いから検討してきたが、豊橋市としてどのように進めていくかは、今後の研究課題にして欲しい。

ここでは、導入の可能性を考えていけば良いと思う。

・「家庭と地域の理解」という項目が追加されたのは、ありがたい。

意識の高い保護者だけではないので、底上げするために保護者へ啓蒙できるよう示せる形のものがあると良いという思いがある。

・保護者個々人で意識が異なる。私は引っ越しして豊橋市に入ったり、豊橋市を出たりしている。ブロックごとに力を入れていることが分かる資料があるといい。そうすると親としても力を入れることが分かりやすい。

・ホームページなどに、まとまったものが示されていると良い。

豊橋市として豊橋市の子どもをどのように育てるかのめざす子ども像はあるのですか。

(事務局) 豊橋市教育振興基本計画というものがあり、そこで示している。

・豊橋市としてのめざす子ども像が大本にあって、そこをめざしていけると良いよ思う。

今後は、どのような展開になっていくのか。

(事務局) みなさまにいただいた意見や今日の会議を受けて、今後の進め方及び推進体制を示していきたいと思う。そして、今後、校長へ我々が考えていることを伝えていく必要があり、次に家庭や地域に理念を伝えていく必要があるので、その展開を記していけると良いと思う。

・統廃合のために小中一貫教育を行うのではなく、子どもの学びのために行ってほしい。結果として統廃合になっているのであれば良いと思う。

三鷹市は、学園構想を掲げて進めている。

教育委員会として統廃合を前面に打ち出すのではなく、それよりも、施設の共同使用のような表現にするなどして欲しい。

最終ステップに統廃合があると統廃合が狙いで小中一貫教育を行っていくように思われかねないので、本来の目的を見失う恐れがある。

・南部中学校は、福岡小学校と話し合いながら連続性を持たせて英語の教育活動を行っているので、南部中学校もひとつのモデルになると思う。

他にも例えば、生徒会と児童会が一緒にあいさつ運動を行っている学校もあるので、教

育委員会からトップダウンで行うではなく、そういった事例を活かしながら深めていくと、気が付いたら小中一貫教育になっていたという状況になっていると良いと思う。

学びの連続性ということをもう少しメインにおくと良いと思う。

- ・ボトムアップとトップダウンの両輪で進めていく必要がある。
- ・校長会で作るのも良いと思う。校長会と教育委員会で一緒につくるなど。
- ・小中一貫教育に本腰を入れられるように余分な仕事を全て削っていく必要がある。学校も全てを抱え込むようなことを続けていたらいけない。

教員が子どもの教育相談などへ集中できるような環境整備を行わないと、これによりまたひとつ仕事が増えるのかと、負担感を抱かせることになってしまう。

これは、教員の仕事の本道であるので、教育委員会で減らせること、学校で減らせることなどを整理していく必要がある。

そのためには、会議を減らすとか、地域の自治会にお願いしていく、民間に頼むなど整理していく必要がある。

・私たち第3者が見ていると、このようにスケジュールをステップで区切ると時間に追われるように感じる。子どもを中心として進めていけるようにして欲しいと思う。校区の特性を生かす事が大切なので、それを置き去りにしないようにして欲しい。

今まで、ハードを中心に議論をしてきたが、ソフトは今後の課題であると思う。中1ギャップが課題であると言われており、中1ギャップが解消したら小中一貫が成功したと考えられがちであるが、中学校2年生や3年生にもギャップがある。今後は、そのことも含めて課題として捉えて解消していくことが、必要がある。

(事務局) 時間的な制限について、何年までにという目標設定をすることが一般的ではあるが、ここでは敢えて記載しなかった。それでも表を示されるとそう感じることもあるというですね。

・ただ、スパンを決めなければ進まないの、私はペナルティを課す必要もあると思う。そしてこれを進める推進母体が、どこなのかをはっきりさせる必要がある。中学校区が推進母体になると思うが、母体の責任は誰が中心になって進めるのか。中学校区で組織を作るのか。

仕組みや実行していくルールやプロセスは、今後の課題とすると言う事ですね。

(事務局) はい。

《最後に一言》

- ・1年半勉強になり、自分にもプラスになった。学校へ持ち帰って活かしていきたい。
- ・一番大事なのは子どもにとってどうであるかということである。

我々教員は、すぐに教員や校長の立場として考える傾向にあるが、学びの連続性や子どものためということを改めて大切にしたいと思った。校長会も協力をしていきたいと思うのでよろしくお願いします。

- ・子どもが主体ですので、子どもがどのように育つかという視点を大事して続けて欲しい。
- ・ここで検討されたことが、今後の教育に生かされていけばうれしいと思う。
- ・今の子どもたちは抱えている問題が多く、親が振り回されている状況でもある。親もくじけそうになるが、みなさんが見守っていただいているということを心において親もしっかりしていきたいと思った。
- ・ここでの経験を自分の家庭に生かして、子どもも私も選択肢が多い日常を過ごしているので、子どもにとってどれが一番いいのかを日々考えて過ごしていきたい。
- ・当初は、小中一貫教育の需要があるのか疑問だった。

教育政策や学校経営を専門に大学では担当している。小中一貫教育をどこまで本気で進めていくのが、豊橋市だけでなく全国の都市が抱えている問題です。みなさんからは、現場や保護者としての意見を聞くことができましたが、子どものためにどうしていくかということが大切であると改めて思いました。

- ・これを活かして最終的な答申として出させていただきたい。これを土台として新たな段階へと進んでいただけたらと思う。